小幡地区　社会資本整備総合交付金･都市再生整備計画　第３期
事後評価シート原案の概要について

■社会資本整備総合交付金の概要

社会資本整備総合交付金は、平成 22 年度に創設された国土交通省所管の支援制度です。地域の課題に合わせた一体的な社会資本整備に対して、国から交付金を受けることができます。

■事後評価について

事後評価とは、交付金事業の実施前に設定した目標･数値指標（社会資本総合整備計画･都市再生整備計画に記載）を交付期間の最終年度にその達成状況等を確認し、評価分析を行い、町民の皆さまに公表したうえで、今後のまちづくりに活かすことを目的としています。

■交付金を活用した小幡地区のまちづくりの概要

事業期間：令和２年度～令和６年度（5年間）　総事業費：151.8 百万円

まちづくりの目標

目標 ： 歴史･文化遺産を活かしたまちづくりを推進し観光の振興により地域の活性化を図る。

小目標①：文化財（歴史的風致形成建造物）の活用を図る。

小目標②：来訪者の回遊性を高める案内板･情報板等の整備充実を図る。

小目標③：景観保全のため修景整備を推進する。

小目標④：楽山園周辺において道路の美装化や周遊施設の整備を推進し、回遊性及び景観向上を図る。

小目標⑤：甘楽総合公園内において、園路整備を実施し、周辺施設への回遊性の向上を図る。

主な事業

城下町小幡の再生のために、来訪者や住民が交流でき、小幡地区を回遊しやすくするための施設や道路の整備を行うとともに、魅力的な町なみを形成するための景観整備を行いました。

※主な事業の概要は2頁をご覧ください

■事後評価原案の公表資料

事後評価では、計画の中で策定した数値指標の達成状況の確認や効果発現要因の整理、今後のまちづくり方策を検討しています。 詳細については、事後評価シート原案を公表していますのでご覧ください。

※事後評価の概要は3、4頁をご覧ください

■今後のスケジュール

有識者等による事後評価の妥当性確認	令和　7年　2月中旬予定
事後評価の県や国への報告	令和　7年　2月末予定
事後評価結果の公表	令和　7年　3月予定

主な事業

［整備方針］

城下町小幡の再生のために、歴史的な観光地として相応しい環境を整えます。初めて訪れる来訪者にもやさしく、回遊する人が気軽に休める公園や空間を整備・配置することにより、単に通過するに終わらない、移動しながらもゆったりとして小幡地区の歴史文化遺産と風致を楽しめるよう配慮します。

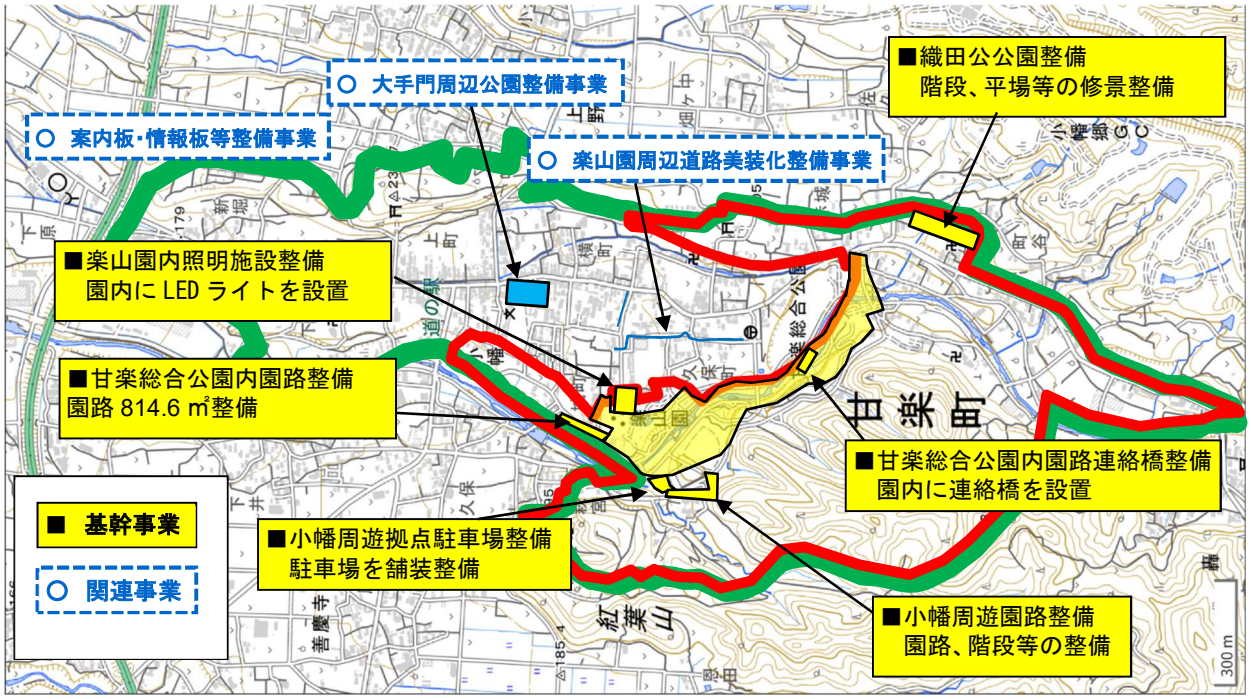
■織田公公園整備

織田公公園内の階段や平場等の修景施設の整備を行いました。

公園内の法面を遊歩道として整備することで周遊性が向上し、良好な景観形成が図られました。

■楽山園内照明施設整備

園内各所に LED スポットライト等を20台設置しました。設置後、夜間イベントを行い、多くの方に来場いただき、普段と違った魅力を発信することができました。



■小幡周遊拠点駐車場整備

ふるさと館前駐車場の舗装整備を行いました。駐車場整備を行うことで、小幡地区の周遊性の向上や散策の拠点としての機能向上が図られた。

■事後評価の概要

小幡地区のまちづくりの目標に対する指標と計測方法は次のとおりです。

目　標
歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを推進し観光の振興により地域の活性化を図る。

指 標 1： 国指定名勝楽山園入園者数
楽山園の年間合計入園者数を求めました。

指 標 2： 駅からハイキング来訪者数
駅からハイキング年間合計来訪者数を求めました。

指 標 3： 道の駅甘楽の入込客数
道の駅甘楽の年間合計入込客数を求めました。

その他の数値指標： もみじウォーク参加者数
もみじウォークの参加者数を求めました。

今回の小幡地区まちづくり事業の評価結果の概要は、以下のようになっています。

指標の達成状況

指標名	事業前の数値	事業後の目標値	評価値	達成度	1年以内の達成見込み
指標1 国指定名勝楽山園入園者数	44,700 人 （平成 30 年度）	45,200 人 （令和 6 年度）	45,657 人 （令和 6 年度見込）	○	―
指標2 駅からハイキング来訪者数	130 人 （平成 30 年度）	180 人 （3 ヶ月間） （令和 6 年度）	109 人 （3 ヶ月間） （令和 5 年度確定）	×	なし
指標3 道の駅甘楽の入込客数	418,200 人 （令和元年度）	430,000 人	386,400 人 （令和 6 年度見込）	△	なし
その他の数値指標 もみじウォーク参加者数	311 人 （令和元年度）	―	約 1,000 人 （令和 6 年度確定）	―	―

※達成度の凡例：「○」評価値が事業後の目標値を上回った場合
「△」評価値が事業後の目標値に達していないものの、改善がみられる場合
「×」評価値が目標値に達しておらず、改善がみられない場合

※その他の数値指標は、計画当初の指標の他に効果を示すことのできる指標として追加したものです。

指標1： 楽山園の入園者数が 45,657 人で、目標値（45,200 人）に達しているため、○としました。
指標2： 駅からハイキング来訪者数は 109 人で、目標値（180 人）に達していません。
従前値（令和元年度）の実施季節と評価値（令和 5 年度）の実施季節が異なり、来訪者数に偏りがあるため、定点観測に適していませんでした。
指標3：道の駅甘楽の入込客数が 386,400 人で、目標値（430,000 人）に達していません。令和 2 年度以降増加傾向となっていることから△としました。
その他の数値指標：
もみじウォーク参加者数について、事業前の 311 人に対し、約 1,000 人と増加しており、事業効果が表れました。

定性的な効果発現状況

指標値による定量的な効果発現の他に、以下の様な定性的な効果も見られます。

・これまでの都市再生整備計画事業（第1期・第2期・第3期）や他事業を通じた観光資源（歴史文化遺産）の整備・保存により、県内外から多数の来訪者が整備区域内を訪れています。

・事業による整備効果だけでなく、官民連携による多様なイベントや地域の清掃活動等が、地域の方の観光まちづくりや景観等の意識の向上につながり、地域の方と観光客の方の交流が推進されたように伺えました。

まちの課題の変化

社会資本総合整備計画の策定時に課題として挙げた点について、以下の変化が見られました。

・もみじウォークやアンブレラスカイ等のイベントの実施により、イベント時における交流人口は増加していきました。

・しかしながら、計画当初と比較すると交流人口が減少している部分もあるため、オフシーズンにおいても安定した交流人口を維持するための集客方策やリピーター拡充が必要となっています。

・周遊施設や周遊園路の整備を行ってきましたが、今後は整備した箇所を線で結びつけるような整備を行っていく必要あります。

今後のまちづくりの方策

事後評価の結果を踏まえて、小幡地区の今後のまちづくりについて以下の方策に取り組みます。

・周遊性・回遊性の向上を図るために、道路整備や総合公園園路整備、休憩施設の整備等を実施していきます。さらに、回遊ルートのさらなる整備や年間を通じた来場促進活動により、通年の回遊客の維持を目指します。

・交流人口の増加を図るために、歴史文化遺産の整備や保存、周遊拠点の整備を行い、地域の方々や観光客の方々の交流機会の創出を目指します。

・町内施設の整備やイベントの実施とともに、SNS 等を活用した PR 活動により、町の魅力発信を継続・促進していきます。